



こんにちは

はるこ

たからお治子です

日本共産党

稲城市議会議員

No.56

2003年12月

稲城市平尾3-7-5
平尾住宅50-105
電話：331-7481

E-mail: inagijcp@angel.ne.jp

12月市議会

稲城市が家庭ごみ収集有料化を提案

有料化の問題を考えてみませんか

稲城市は12月定例市議会に、家庭ごみ収集の有料化を提案しました。市民からは「なぜ有料化なのか」の声があがっています。市議会には有料化の再検討を求める市民からの陳情も出されています。そのいっぽうで、ごみ問題を考える人たちからは、「有料化は必要なのでは」という声もあります。

市民のみなさんのいろいろな意見を受けとめながら、ごみ収集の有料化について考えてみたいと思います。

ごみの処理にお金がかかるから仕方ないのでは？

ごみの処理にお金がかかるのはなぜでしょう？「ダイオキシン対策」を理由に大量のごみを高温で24時間燃やし続けることのできる焼却炉を数百億円もかけて建設し、「最終処分場の延命」を理由に年間数十億円もお金がかかるエコセメント事業を進めるからではないでしょうか。

私たちは、リサイクルや減量化を徹

底すれば、大型焼却炉の建設やエコセメント事業は不要と提案してきました。

ごみ問題に取り組む市民団体も、お金のかからないさまざまなごみ処理の提案をしています。これらの提案にもかかわらず、お金のかかることをおし進め、その結果、市民にさらに負担を求めることになってしまったのではないのでしょうか。

有料化案（指定収集袋制）の内容

特小袋：1枚8円

小袋：1枚15円

中袋：1枚30円

大袋：1枚60円

負担が公平になるから必要？

ごみの処理費用は量ではなく、質によって決まります。たとえば、紙を燃やしてもダイオキシンはほとんど発生しませんが、塩化ビニール（塩ビ）を燃やせば大量のダイオキシンが発生

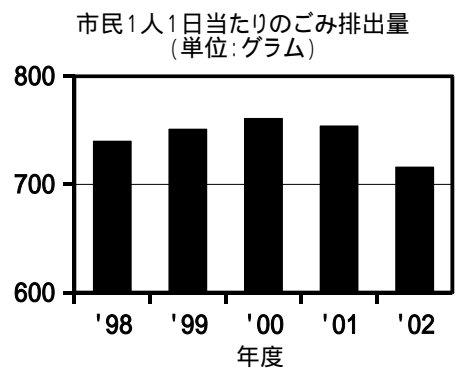
します。同じ量のごみでも、塩ビのほうが多くの処理費用がかかります。「公平」を言うなら、ごみの質に応じた負担を求めるべきですが、有料化ではごみの質に応じた負担はできません。

ごみを減らすために必要なのでは？

環境省の調査では、有料化によってごみが減った自治体は約半分。減った自治体のうち不法投棄が増えたところも半分。ごみが減り、不法投棄も増えなかった自治体でも減量の効果はせいぜい1、2年で、すぐに有料化前と同じくらいに増えています。

稲城市ではここ数年、市民一人一日あたりのごみの排出量が減っています。

市民と行政が力をあわせれば、有料化をしなくてもごみは減らせます。



有料化の前に、やることがあるのでは？

1 生ごみの堆肥化・故紙のリサイクルをすすめる

稲城市が収集するごみの8割は可燃ごみ。可燃ごみの4割は生ごみ、3割は故紙です。生ごみの堆肥化・故紙のリサイクルを進めるだけで、ごみは大幅に減らせます。

2 市民の取り組みを支援する

減量が進めば、ごみ処理の費用を節約できます。その費用の一部を使ってごみの減量に協力する市民や地域を援助すれば、ごみをさらに減らす動機づけになります。

3 メーカーの責任による処理費用の負担を求める

ごみ処理の費用をメーカーの責任で負担すれば、メーカーはごみにならず、処理にお金のかからない製品をつくるようになります。これは「拡大生産者責任」とよばれ、ドイツなどで実施されています。稲城市は他の自治体とともに、国や財界に対して拡大生産者責任の実施を強く求めていくべきです。